

# 優勝

# PROJECTION 映像作品を様々なサイズで投影できる集合住宅

石川県 石川工業高等専門学校 選手…3年生1名



表彰式にて

## **PROJECTION**

映像作品を様々なサイズで投影できる集合住宅



## CONCEPT



私個人の感覚ですがとても懐かしさを感じる作品です。計画案が懐かしいというわけではありません。建築を志した頃のプレゼンテーションを思い出せたからです。私が建築を志した1970年代から80年代は空間、形態表現が主流でした。当然空間、形態だけでなくその建築での生活や活動を考えて空間をつくっていたのは当然ですが、空間や形態をピュアに表現するため、現在のカラフルな表現ではなく図面・模型も白を基調としたストイックなまさに空間・形態を主とした表現でした。白を基調とした細部まで表現され端正につくられた模型、かつちり表現された平面・断面図などがまさにストイックな表現で懐かしさを感じたわけです。

話を計画案に戻します。平面は周辺の住宅街のスケールに呼応するように、この建物の中心となる2層にわたる段床を持つシアタールームを住宅が囲む分棟配置となっています。分棟配置によりまちを構成する道、細い路地、ちょっとした広場のような空間が生み出され、まちと連続する場をつくり、人々をスマーズに導きます。

残念なことがあります。シアタールームの設えです。2層にわたる段床を普段は開放すれば一種の動線・広場になります。そのため開口はフルオープンサッシにしたほうが良かったと思います。上下をつなぐ動線が螺旋階段一つというのが少し残念です。まちには

受賞のことば

この度は、優勝という名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。親身にご指導くださった先生方の支援のおかげにより、愛着のある作品をつくり上げることができました。

この「PROJECTION 映像作品を様々なサイズで投影できる集合住宅」は、パソコンで映像作品を制作し、電源と編集機材さえあれば、場所を選ばない働き方に着目した提案です。この生産者たちは、同業者と仕事をすることははあるかもしれません、一般の人々と関わることは少ないと考えました。現代はスマホやパソコンが普及し、無数の映像コンテンツを得ることができます、それには生産者が必ずいます。しかし、私たちはどんな人がどのように制作しているかは知りません。そこで、壁面に様々な大きさと距離で作品を投影することで、制作者の検討作業と同時に地域を開く住まいを計画しました。

ショートカットの道などさまざまなルートがあります。建築基準法上は避難のための直通階段が必要です。これをメインの動線とすればそのほかに複数のコーカルな階段があれば回遊性が生まれ、人の動きが生まれ活気が生まれます。外周に配置された住宅は映像を仕事にする人の住まいとすれば、そのためのワークスペースがあり外に開いたプランがあったらもっと良かったと思います。しかし、分棟配置による半外部空間は、ここで住まい働く人たちの映像・動画作品を上映する場となり、ちょっとした広場のような空間には人々が休憩・談笑できる場となり、都市のような賑わいをつくり出しています。

分棟は瓢箪型の4層の外壁でまとめられています。表かしさを感じる系ですが、周辺の住宅街のスケールからすると大きい気がします。しかし、地域の方々が気軽に立ち寄れ、映像を介してコミュニティが形成されている空間は、まちに馴染むとともにまちに開放された一種のコミュニティ施設と考えられます。まさに今回のテーマである働きながら暮らすことができ職住一体の家「まちに住む・地域に聞く住まい」です。それをわかりやすい端正なプレゼンテーションで表現したこの案は、実際に実現したいと感じる素晴らしい提案でした。よって、審査員一同優勝と決定しました。優勝おめでとうございます。(堀)

日本の少子高齢化の影響により、地域コミュニティが希薄化し、地域に暮らす人々が孤立している状態です。生産者がディスプレイ上にとどまらず、外壁や屋外壁面などで実物サイズを確認したり、作品の感想を耳にしたり、住民から印象を聞いたりする状況は、ある意味で建築設計のプロセスとも似ていて、親和性の高い組み合せだと感じています。このような環境が少しでも「まちに住む、地域に聞く住まい」となることを願っています。

これからもたゆまぬ努力と経験を積み、新しい知識を吸収していきたいと思います。この度、この作品を評価いただけたことは、今後の学業の何よりの大きな支えとなると思います。改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(大澤綾乃／石川工業高等専門学校 建築学科3年)